



1年前から子宮が出てきて握りこぶし大に。リング(小、中、大)を入れたが尿が出にくい。(80歳、女性)▽2年半前に子宮脱の手術をしたが、子宮か膀胱が下がり急に尿意を覚える。手術以外はリング状の装具を付けるペッサリー療法だけか。(75歳、女性)

骨盤臓器脱

高齢化で増加、手術かリング療法を

「質問の2件は骨盤臓器脱についての質問です。骨盤臓器脱は出産が要因となり、加齢に伴い骨盤底の支えが弱くなって発症する疾患で、超高齢社会の日本では患者さんが確実に増大しており、医療経済的にも重要な疾病です。骨盤臓器脱は脱出する部位

入するリング療法とがありま

す。1件目の方は子宮脱があり、大きなリングも装着不可で、排尿のトラブルもありますので、手術療法が必要と言えます。手術には複数の方法が考えられますが、80歳という年齢を考慮すれば腔閉鎖術

術後3年半経過して再発しており、急な尿意に困っており、急な尿意に困っており、おそれるのとこのことですので、おそらく膀胱瘤の再発と考えられます。初回が子宮を残した手術であれば、脱出部位が子宮または膀胱瘤の可能性がります。いずれにせよ子宮脱に対する従来の手術では再発が

ります。現在各種下着が購入可能ですのでインターネットで検索してみてください。(兵庫県医師会、草西 洋二 明石市立市民病院医師) ◇第1、3、4日曜に掲載

別に子宮脱、膀胱瘤、直腸瘤と名称が異なります。症状は脱出違和感のほかに、頻尿や尿が出にくい、急に尿意を覚える、尿が漏れるなど排尿に関する症状があります。治療には、手術療法と、手術をせずにリング状の合成樹脂製腫(ペッサリー)を腔内に挿

入するリング療法とがありま

す。1件目の方は子宮脱があり、大きなリングも装着不可で、排尿のトラブルもありますので、手術療法が必要と言えます。手術には複数の方法が考えられますが、80歳という年齢を考慮すれば腔閉鎖術

術後3年半経過して再発しており、急な尿意に困っており、おそれるのとこのことですので、おそらく膀胱瘤の再発と考えられます。初回が子宮を残した手術であれば、脱出部位が子宮または膀胱瘤の可能性がります。いずれにせよ子宮脱に対する従来の手術では再発が